喜寿を南太平洋上で

クルージングレポート（VOL. 1 ）

山岸敏夫（11 組）

少し個人的過ぎると思わないでもありませんが、“旅”という切り口から、船旅の様子を南太平洋上から投稿します。

昨年 7 月、高校同期の喜寿を上田で祝いましたが、私の喜寿は南半球の洋上で迎えようと計画して実現しました。（編集：山岸君の誕生日は 1 月 12 日）

今回のロングクルーズは昨年 12 月 14 日から今年の 3 月 30 日までの 107 日間。

船旅（クルーズ旅行）の良さに気づいたのは 3 年前で、たまたま保有していた株主優待割引券を利用してみたのがきっかけ。飛行機での移動と違った大型客船での付加価値が気に入ったからだ。飛行機移動の最大のメリットは時間効率であるが、船はその逆で、移動時間を利用して何が出来るかだ。

非日常を求めたクルーズ船の旅は船上生活と寄港地旅に分けられる。

当初、船上生活は旅だが、慣れてくると日常生活になり、旅に出たくなる。それが寄港地旅である。今回選択した南太平洋・南米・アフリカコースの寄港地は 19 か所で、なかなか気軽には行けない憧れの場所を短い旅ながらも 19 回することになる。オアフ島、タヒチに寄港した後の南米は初めてなので、期待している。

イースター島・チリ・ペルー・アルゼンチン・ウルグアイ・ブラジル・ナミビア・南アフリカ・モーリシャス・マダガスカル・シンガポール・台湾と廻る予定。

見どころは、太平洋の島々の大自然、イースター島のモアイ像、マチュピチュ、リオのカーニバル、アフリカのサファリなどなど。

今回のクルーズは 1950 人の乗客で、日本以外の外国からの参加が 650 名、乗客の平均年齢は 71 歳、うち初めての乗船の方が 7 割ということ。

船内での食事はビュッフェやコース料理を自由に選択できる。乗客同士のコミュニケーションを促進させるため、食事は原則相席となる。従って、皆、長いキャリアの中で、積み上げてきた話題は旅の情報や健康を含め興味深く、食事時間が長くなってしまう。結果、ウエイトコントロールが避けられない。

次ページに写真 2 葉

《続きは VOL. 2 へ》

2025 年 12 月 14 日に神戸から出航する山岸夫妻

ダイヤモンドヘッドからの眺望

（2026 年 1 月 12 日 記）

以上